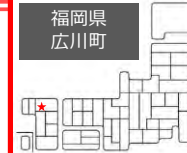


「フルーツの町」ブランドの確立による賑わいの創出（福岡県：広川町全域）

広川町を訪れる人を増加させ、人で賑わう地域、定住や他地域からの移住などで地域の活性化を目指し、町内東部の「上広川地域」の地域資源の掘り起こし及び商品開発を行い、「フルーツが豊富な町」という認知度向上の取組を実施した。



基本情報

- 所在地：福岡県八女郡広川町
- 団体名：『ひろかわ』ブランド推進協議会
 - ・『ひろかわ』ブランド生産組合
 - ・里の駅 広川くだもの村 ・（有）原野製茶本舗
 - ・（株）鹿田産業 ・ JA福岡八女広川地区センター
 - ・広川町産業課 ・ 個人会員 2 名
- 実施地域：広川町全域
- 主産業：農業
（主要農産物）いちご、ぶどう、梨、桃、茶、電照菊、ガーベラなど



取組の概要

対策前(課題)

○いちご等県内でも有数の生産地であるが町の知名度が低い。

○山間部での人口減少、農業者の高齢化等により耕作放棄地が増加している。

対策後(効果)

○広川町＝“フルーツの町”と認知してもらうブランドを確立した。

○ブランド確立により、農業所得の増加、新たな農業従事者の発掘、後継者不足及び耕作放棄地の解消につながった。

○“フルーツの町”広川の浸透による訪町者の増加等によって、上広川地域が“賑わう場所”へ変わった。

体制図

事務局

『ひろかわ』
ブランド推進
協議会

広川町役場産業課商工観光係
（事務処理、会計、企画、運営）

商品開発・生産チーム
（農産物の生産・確保、
商品の試作・開発）

販路開拓チーム
（開発商品の販路開拓・拡大）

PR・プロモーションチーム
（情報発信基盤構築、情報発信、人
材・地域資源の掘り起こしイベント、サ
イクルツーリズム）

連携

久留米大学
（労力提供）
広川町農業委員会
（農地情報提供）

『ひろかわ』ブランド推進協議会

活動計画

協議会事務局
総務
経理責任者
広川町役場
産業課

連携団体
・広川町
農業委員会
・その他
事業者

商品開発チーム

・ひろかわ
ブランド生産組合
・里の駅
広川くだもの村
・その他

・その他

販路開拓チーム

・（有）原野製茶本舗
・JA福岡八女
広川地区センター
・その他

・その他

PR・プロモーション チーム

・（株）鹿田産業
その他

・その他



広川町の農産物を
活用した商品開発
↑チョコレートショッ
プとのコラボ商品
↓キーボタニカルに
いちごとぶどうを使
用したクラフトジン



【事業全体のプロセス】

上広川地域の人口減、
広川町の知名度の低
さ。農業者の高齢化、
後継者不足、耕作放
棄地の増加

2018年～

きっかけ

○ 広川町は福岡県内でもトップクラスのあまおうの生産地である。海外でもあまおうが人気になる中、県内各所でPRする中で、広川町があまおうの産地であることが認知されていなかった。それどころか、広川という地名自体の認知度の低さを知らしめられた。広川町の総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略を基に計画を立て、広川町の地域資源を活用し、『ひろかわ』の名を全国に認知させ、広川ブランドの確立、町の知名度向上、上広川地域の人口減など広川町の課題解決を目指す取組を開始した。



福岡空港国際線での
広川産あまおう販売

2020年～

農山漁村振興交付
金（活動計画策定
事業）の活用

新型コロナ感染症
拡大により先進地
への視察が困難と
なる。

事業開始 1 年目（取組実績）

- 対話式動画を作成。これを活用しワークショップでの検討等を踏まえた地域活動計画を策定
- 広川産フルーツを活用した加工品開発とこれを食材としたレストランでのメニュー化
- 協議会の公式HP、SNSの開設と協議会ロゴ、商品ロゴマーク等の作成

2021年～

農業にとどまらず、
伝統工芸品やサイ
クルツーリズムを
交えた取組も実施。

より効果的にPRを
進めるため、有名
シェフを招聘し、
商品開発と併せて
PRを実施。

事業開始 2 年目（取組実績）

- 広川産農産物を活用した加工品の更なる開発と飲食店向けメニュー化
- 開発した商品の“ふるさと納税”返礼品採用への取組と県内有名シェフに対する豊富な広川産農産物のPR
- R2に開設したHP、SNSによる協議会活動及び町内風景写真等の掲載による情報発信



広川町の農産物を使ったレスト
ランでの期間限定イベント

2022年～

事業終了後、地域
活性化のために自
走していく協議会
を目指し、継続し
ていくため持続可
能な内容を精査。
また協議会の体制
を協議し、来年度
以降の準備を進め
た。

事業開始 3 年目（取組実績）

- 広川産バジルとキクイモを活用したレシピの確定とともに、更なる加工品の開発
- 若い世代と健康志向者をターゲットにした販売計画の策定と販売体制の構築
- SNS等を活用した協議会及び広川町のプロモーションの実施並びにサイクルツーリズムと連携したイベントの実施等



耕作放棄地にひまわりを植栽し、
サイクリングコースへ

今後の
展望

広川町の情報発信と関係人口の拡大

○ 関係人口の創出・地域住民を巻き込んだ情報発信

協議会が自走していくために、開発した商品の販売を開始する。販売促進と地域のPRのために、イベントに参加し、関係人口を増加させる。またこの事業を通して繋がった事業者とは今後も継続して協業する計画を立てる。デジタルを活用した情報発信の分野に課題を残したため、協議会のメンバーを増員するなどして、体制を整える。町民をその気にさせて活動に活気を持たせていく。まずは広川町を訪れる人の数を増やし、町内の活気・経済の底上げを図りたい。



生産者の写真も併せて
情報を発信



福岡市の有名ショコラティエ。
広川町フルーツアンバサダー就任



西原区の地域資源であるムーチャー（旧暦の12月8日に年の数だけ食べる月桃の葉で包んだ餅）や集落の行事を活用したイベント等により都市部との交流を図り、西原区における雇用創出や高齢者が活躍できる場を創出した。

基本情報

- 所在地：沖縄県南城市
- 団体名：南城市大里西原活性化協議会
（協議会構成員）西原地域活性化を考える会
南城市
- 実施地域：南城市大里西原地区
- 主産業：農業
（主要作物等）
ゴーヤー
さやいんげん
オクラ

集落全景



取組の概要

対策前(課題)

○ 人口が10年前に比べ10世帯45人減少し、現在57世帯130人。65歳以上が約45%と高齢化が進行している。

○ 集落行事の運営や環境美化活動に参加できる区民が年々減少し、行事の伝承、拝所・農道の維持管理に支障をきたしている。

対策後(効果)

○ 現在53世帯124人。65歳以上が約40%と人口減少と高齢化が鈍化した。

○ イベントを地域資源である島添大里城跡を中心に開催することで、区民が集落行事等の参加に意欲的になり、城跡の草刈りの作業委託に繋がった。

体制図

南城市大里西原活性化協議会

事務局

西原地域活性化を考える会
（事務処理、運営計画管理）

農業部門
（餅米栽培の計画・管理等）

文化部門
（絵本、地域資源マップ作り）

イベント部門
（イベント策定・運営、ムーチャー商品化）

南城市（各部門の関連各課）
（活動支援、活動監査）

連携

地域の協力団体・会社・協力者
（イベント、農業、文化の各部門で連携）



集落内の草刈り作業



集落行事：綱引き



集落行事：観月会



集落行事：観月会

【事業全体のプロセス】

2020年～

きっかけ

○沖縄本島南部の南城市大里にある西原区の人口は、57世帯130人となっており10年前と比べ10世帯45人減少し、65歳以上の割合が45%と高齢化が進んだ。主だった就業場所は無く、また、集落行事の伝承や農道等の維持管理に支障をきたしており、早急に対策が必要となった。



地域資源散策マップ

2020年～

事業開始1年目（取組実績）

- 活動計画策定に係るワークショップ
- 環境・文化資源の現地踏査と情報共有
- ムーチー絵本下絵作り ○ SNS発信（6回）



ムーチー物語の伝承聞き取り



オリジナルムーチー絵本

2021年～

事業開始2年目（取組実績）

- 大里西原区オリジナルムーチー絵本・デジタル絵本完成 ○ ムーチー商品化実証
- 陸稲植付・収穫・精米実施 ○ 地域資源の散策ルートマップ作成
- グスク散策及び星空観察会実施（1回）○ 農業体験プログラムの策定 ○ SNS発信（12回）



ムーチーアイス

2022年～

事業開始3年目（取組実績）

- 南城市内小学校オリジナルムーチー絵本読み聞かせ（29回）
- ムーチーアイス作成 ○ 農業体験プログラム実施（3回）
- 「元気ムーチーまつり in にしぼる」実施 ○ SNS発信（12回）



農業体験プログラム



元気ムーチーまつり

In にしぼる

今後の
展望

「ムーチー（鬼餅）」で交流・活躍の場・6次産業化の創出

- 大里西原区は沖縄に昔から伝わる「ムーチー（鬼餅）」の発祥の地であることから、「ムーチー」の発信による「交流創出」「活躍場所創出」「6次化創出」で、豊かな歴史、文化、景観を継承する。

人口の流出、高齢化の進行により、集落の機能維持が低下

農山漁村振興交付金（活動計画策定事業）の活用

コロナ禍により先進地視察&ムーチー祭りが中止

ムーチー絵本づくり、もち米づくりなどに計画を変更

地域のムーチー物語の伝承を反映したオリジナルムーチー絵本完成

農業体験プログラムの策定のために、陸稲の植付・収穫・精米の試行的に実施

感染拡大防止対策ガイドラインに遵守して各イベントなどを実施

「元気ムーチーまつり in にしぼる」を定着させ、島添大里城跡及び大里城趾公園体験交流センターを中心に交流人口と地域雇用の創出を目指す。